

新型コロナウイルス感染症調整本部医療部会（第14回）会議録概要

1 日時

令和4年12月26日（月） 13:00～14:20

2 場所

県庁 7-A-2 会議室

3 出席者

16名

4 主な意見等

(1) 病床確保計画の見直しについて

- ・医療従事者に対する関心が低く、離職率も高くなっている。職員の確保が難しく、疲弊している。院内感染が起こると一般医療にどのような影響が出るのかについてメッセージ発信をするなど御理解を引き続きしていただく必要がある。

- ・それぞれの状況に応じてこまめにフェーズを変えることが大事だと思う。

- ・国が来年度に向けて2類から5類に移行しようとしているが、急にされると現場は困るので慎重にやってもらいたい。

医療従事者も感染者が増えている、医療現場の人材が非常に疲弊しているが、数が少ない中で一生懸命頑張らないといけない。県民の方や国にもそういうことも十分理解してもらいたい。

→県の方から全国知事会を通じて、公費負担、ワクチン接種、経口内服薬の3つを中心にしっかり対応するよう国に依頼している、

- ・コロナで重症な患者、人工呼吸器で管理しなければならない症例であれば、大学病院のシステムでしか管理できないと思うが、現在はコロナ自体で重症になるという症例はかなり減っている。市内のHCU、中等症以上が診られる病床があり、そこでも診ることが出来る症例だと思われるのに大学病院、市立病院に送ってくるということをそろそろ変えないといけない。

→ここ数ヶ月、手術が必要だから市立病院に紹介しないとといけないということは、相当数減っているのではないかと思っている。市内のいくつかの病院が整形外科だけでなくかなりの疾患で合併症として対応が必要な方は受入をしていた。もし大学病院、市立病院にご迷惑をおかけしているとすれば、市中の病院が満床で受入が出来ないという場合だと思う。

- ・今回事務局から提案させていただいたことに対して、特に異論はなかったように思います。方向性としては特に異論はないということでしたので最終調整に着手してよいか。

→特に意見なし。

(2) その他

- ・コロナを通常の医療にしていくには、コロナであるかに関わらず、その病気を診る病院はその病気を診るべき。虫垂炎の手術、骨折の手術が必要かつコロナ陽性というだけで、肺炎がひどく人工呼吸器をつながなければいけないという患者でなければ、その医療機関で診ていただくことが、通常の医療になってくプロセスだと思う。これからどういう風にコロナを一般医療にしていくかというような時代を迎えた今、そういうことを考えていかないといけない。

→本当に必要な医療を必要な人に提供するためにはという交通整理が必要だという趣旨でご意見を承った。